

## 特集 特別専攻の検証に向けて

昨年3月、特別専攻1期生（2014年度入学）が卒業しました。特別専攻の教育課程が完成年度を迎えたことから、特別専攻運営会議では、検証と検証に基づく改善提起を図るため企画会議ワーキンググループを立ち上げました。これまでも指導にあたる教員は、指導と評価の一体化の中で継続的な検証を重ね、学科での共有がなされてきました。学生自身も教育課程の学修はもとよりTOEIC（TOEIC IP Listening & Reading）スコアのクリアーに向けての学習等において、振り返りや展望の構築に努めてきました。これらの検証や振り返りを踏まえ、ワーキンググループによる検証は、特別専攻の目的である「研究者ならびに高度な技術者の養成を目的とする大学院への進学、またはそれに準ずる人材を育成する」に則ったディプロマ・ポリシー達成状況のアセスメントを目標とします。なお教育開発センターが特別専攻運営会議の事務局を担っていることから、教育開発センターニュースで検証着手を報告することとしました。

### I 検証の内容、方法

- 検証に向けての基礎調査項目を、さしあたり次の5点としました。 1.教職員による教育課程の検証 2.教育課程等に係る学生聞き取り 3.TOEIC等のスコア 4.学内外への周知広報 5.その他
- 昨年9月から10月にかけて高校進路担当者を対象とした認知度調査、および学生の聞き取りを実施しました。また聞き取り時にディプロマ・ポリシー自己評価表を手交し、回収にあわせて指導にあたった教員に同内容の学生評価を依頼しました。これらの記録や TOEICスコアの取得状況等をもとに今後検証を進めていくこととなります。
- その際、ワーキンググループに a.専門教育、b.基礎基盤教育・初年次教育、c.広報 d.理念やディプロマ・ポリシー等総合的見地 の4分担を置き、検証と改善提起に向けてスタートを切りました。

### II 1期卒業生は24名

(表1)

入学者	転入者	転出者	退学者	卒業生
31名	6名	8名	5名	24名

(表2)

本学大学院進学	18名
他大学大学院進学	1名
就職	5名

- 表1は1期生の在籍推移です。31名が入学し24名が卒業しましたが、その間、表のとおり異動がありました（転出ののち退学した2名は「退学者」でカウント）。なお1名は2014年（1年次）10月に転入し、2016年4月に転出しています、
- 表2は特別専攻を卒業した24名の進路状況です。「他大学」は電気通信大学で、大学院進学者は19名（進学率79.2%）でした。本学大学院進学内訳は次のとおりです。

機械システム工学専攻5名、電気電子工学専攻1名、情報工学専攻1名

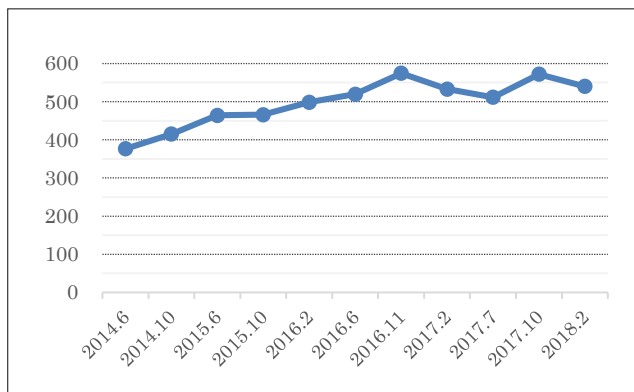
応用バイオサイエンス専攻Cコース3名、応用バイオサイエンス専攻Bコース8名

### III TOEIC Listening & Reading

1期生には海外研修（1か月）の履修条件としてTOEIC600点が設定されていました。600点未満で研修に参加した学生は4年次でのクリアーをめざし、クリアーしない学生にはTOEIC課外講座の出席とTOEIC同等の学内試験の合格を課して海外研修の成績評価がなされました。なお特別専攻英語科目の成績評価方法の基準が変更され、2015年度生からはTOEIC600点クリアーが卒業要件になりました。以下の記述は、公式のTOEICテストの得点によります。

## (1) TOEIC 得点の推移

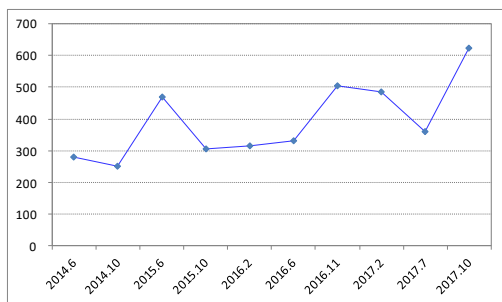
(グラフ1)



○ グラフ1は、1期生の TOEIC 平均点の推移です。入学当初の 376.7 点から 3 年次の 11 月に 574.3 点にまで上昇しました。なお 1 期生の最高点は 800 点でした。

○ グラフ2は、最も得点上昇の大きかった学生の得点推移です。1 年次 10 月の 250 点から、4 年次 10 月の 625 点まで 375 点の上昇でした。

(グラフ2)



(表3)

TOEIC 最低点	600 点以上	600 点未満
500 点以上	2 名	0 名
400～499 点	6 名	0 名
300～399 点	8 名	5 名
200～299 点	1 名	2 名

○ 表3は、最低点を 100 点刻みに区分し、それぞれについて TOEIC600 点以上と 600 点未満の人数を示しています。最低点が 400 点以上の学生は全員が 600 点をクリアし、400 点未満の学生では 9 名 (56.3%) がクリアしています。

## (2) TOEIC 得点とプレイスメントテスト (PT) 英語得点および GPA

(表4)

PT 英語得点	600 点以上	600 点未満
90 点以上	4 名	0 名
80～89 点	6 名	0 名
75～79 点	1 名	6 名
70～74 点	3 名	1 名
70 点未満	2 名	0 名

(表5)

GPA	600 点以上	600 点未満
3.50 以上	3 名	0 名
3.00～3.49	10 名	2 名
2.50～2.99	3 名	5 名
2.50 未満	1 名	0 名

○ 表4は、プレイスメントテスト英語の得点を 10 点刻みに区分し、それぞれについて TOEIC600 点以上と 600 点未満の人数を示しています。(1 名は英語のプレイスメントテスト不受験であったため 23 名を対象としています。) 70 点台の高位に 600 点未満が集中しています。

○ 表5は、GPA を 0.5 点刻みに区分し、それぞれについて TOEIC600 点以上と 600 点未満の人数を示しています。GPA3.00 以上では 86.7%が、3.00 未満では 44.4%が 600 点をクリアしています。

○ 2018 年度入学生からプレイスメントテストが TOEIC Bridge に変更されました。TOEIC L&R と TOEIC Bridge は TOEIC を主宰する ETS が換算について公表しており、指導においてより活用しやすくなると考えられます。

### 参考

(表6)

学年	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
2014 年度生	398.2	467.5	542.5	543.2
2015 年度生	374.5	448.5	478.3	504.2
2016 年度生	399.1	439.7	491.6	
2017 年度生	416.5	433.8		
2018 年度生	387.9			

表6は 2014 年度生から 2018 年度生の学年ごとの平均点を示しています。1 期生は 1 年から 2 年、2 年から 3 年にかけて大きな伸びを示しています。(本ニュース発行後にも TOEIC テストが実施されるので、2015 年度生以下の年度末における平均点は表より上昇することが見込まれます。)

TOEIC600 点は、CEFR\*で「自律した言語使用者」とされる B1 に相当し、「アカデミックな内容を処理できる」B2 を目前とします。800 点は B2 から「熟練した言語使用者」とされる C1 に位置づけられるレベルです。

## IV 卒業生聞き取り、DP 評価

10月に、2014年度生のうち本学大学院に進学した18名を対象として聞き取り調査を行いました（1名休学中につき17名実施）。ほとんどの学生が予定していた30分を大幅に超過して大いに語ってくれました。概して特別専攻に満足感を示し、大学院での学修に前向きに取り組んでいる様子であり、教員への感謝をそれぞれが多く述べていたことが印象的でした。このセンターニュースでは、多くの学生が述べたことや、聞き手として強く印象に残ったことを抽出し記載します。（聞き取り集約等の詳細は教育開発センターのHPに掲載します）

### (1) 質問と回答

<b>質問1 特別専攻生として4年間を過ごし、どのように成長したか</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 必修科目が多く、勉強に集中することができた。</li><li>○ 学習時間が格段に増えた。理解することの大切さを学んだ。</li><li>○ 特別専攻に在籍したから大学院に進学した。</li><li>○ 特別専攻でなければ大学院に進学しなかった。</li><li>○ 第一志望でなく入学したが、やるべきことを見出した。</li><li>○ 関心の薄かったことに対して関心を持つことができるようになった。</li></ul>
<b>質問2 特別専攻のカリキュラムの良い点と悪い点</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 早い時期からゼミに入りモチベーションが上がった。</li><li>○ 研究室を回る授業があり、早い時期にやりたいことがみつげられた。</li><li>○ 留学が必修であり、視野が広がった。</li><li>○ 留学先で研究できたことが良かった。</li><li>○ TOEICは特別専攻に在籍したからこそ受検し英語力が上がった。TOEIC600点は厳しいが良かった。</li><li>○ 新聞理解表現演習により課題を発見する力、読んでまとめる力、書く力がついたが、他の授業準備時間が減った。</li><li>○ 専攻と直接的な関係の薄い授業で視野が広がった。教養的な授業が幅を広げるうえで良かった。</li><li>● 専門科目をもっと多くとれるようにしてほしい。</li><li>● 必修が多いため、興味あることに割ける時間が少なくなる。</li><li>● いらぬ科目がある。授業内容がシラバスと異なっていた。</li><li>● 1年次、特別専攻だけの授業が多い。学科の一般生が受ける基礎科目を受けられない。</li></ul>
<b>質問3 特別専攻の教育課程による成果、満足度をどのように実感しているか</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 早い時期からのゼミ、2年後期からの専門科目で深まった理解は特別専攻ならではのことで実感。学ぶ楽しさは特別専攻の教育課程で学んだからこそ得られた。</li><li>○ 10点満点で10点。忙しかったが、それは不満要因にはならない。</li><li>○ 専門基礎導入についてはもう少し厚くしてほしいが、全般には満足。</li><li>○ 1年後期に転科せず一般のままであつたら同じ成果は残せていない。</li><li>○ 海外研修が良かった。世界観を広げた。英語も好きになった。</li><li>● 座学より専門科目を充実してほしい。もっと選択肢がほしい。</li><li>● 教養的な科目でなく、もっと医生命ならでの専門科目を設定してほしい。</li><li>● 留学が良かった。行くまでに英会話を学べるとよく、英会話を時間割にいれてほしい。イングリッシュラウンジに行けばよいのだが、その時間がない。</li></ul>
<b>質問4 大学院での学修で大切にしていること。前期課程修了後の展望</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 成果を出すため努力を惜しまず継続した学習。データ収集など同じことの繰り返しを折れることなくやっていく。</li><li>○ 先生から求められる大学院生としての論理的思考力、知識を身につけたい。</li><li>○ 人との関わり、コミュニケーションを大切にし、後輩に見られていることを念頭に置き修士生の意識を持つ。</li></ul>
<b>質問5 特別専攻、特別専攻生に対することとして大学に望むこと</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 学生にとって厳しくとも高いレベルの継続。頑張ることで乗り越えることが大切だということをわからせてほしい。学生にとって負担の大きいこともあるが、まずやってみようということを学生に伝えてほしい。</li><li>○ 本学（特別専攻）について高校にアピールし、やる気のある学生を求める状況をつくる。</li><li>○ 1年次は友だちづくりの上で一般学生と一緒に授業を多く受けられるようにしてほしい。</li><li>○ 文系、教養の授業をさらに充実させてほしい。</li><li>○ TOEIC600点をクリアした学生には大学負担で公開試験を受検できるような仕組みをつくる。</li></ul>

\*CEFR ; Common European Framework of Reference (ヨーロッパ言語共通参照枠) の略。The Council of Europeが提唱した言語の到達度に係る国際基準。Reading, Listening, Writing, Speakingの4技能について、A1~C2の6レベルを設定し、can-doリストの形で到達度を記述している。TOEICや英検、GTECなど各試験団体のデータとCEFRの対照がなされており、2021年度からの大学入学者選抜の改善に向けて高校の進路指導においても活用が始まっている。

## (2) ディプロマ・ポリシー(DP)における学生の自己評価および教員による評価

学生自己評価は「特別専攻のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）と達成度自己評価」(①)、「学修成果の自己評価（入学前と入学後の評価）」(②)により、教員評価は①と同内容の「特別専攻のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）と達成度自己評価（教員評価）」(③)により実施しました。表7は項目概要と評価をまとめたものです。（ディプロマ・ポリシー、教育目標の具体例、教育目標の具体例とその達成度を記した評価表は教育開発センターHPに掲載します。なお達成度の評価は4を上限とする4段階であり、表7の平均点はその値により算出しました。）

(表7)

ディプロマ・ポリシー		教育目標の具体例	評価の平均	
			自己	教員
技能 表現	専門知識や科学的な文章の読み方や理解する力、英語コミュニケーションがとれ、論理的な報告書の作成能力、成果や自分の考えを的確に文章化する力	文章表現力、読解力	2.79	3.12
		討論、報告、口頭発表力	2.64	2.94
		チームワーク力	2.93	2.88
	英語コミュニケーションがとれプレゼンテーションができる	英語力	2.71	2.94
思考 判断	実践的教養と論理的思考力により、自ら課題を発見し道筋を立てて解決できる	目標設定、計画力	2.71	3.18
		目標達成と問題発見力	2.43	2.88
		課題解決力	2.79	2.65
知識 理解	専門知識、専門技術を活用し、先端的研究活動や開発設計に活かすことができる	基礎学力	3.07	3.00
		応用力	2.93	3.12
関心・意欲 態度	常に専門分野に対する高い関心を持ち、社会のニーズに応える探求ができる	技術者としての社会的責任、倫理観	3.00	3.29
		科学者の目で見える習慣、社会的ニーズの洞察	2.79	2.65

(全体) 2.80 2.97

## V 高校進路担当者認知度調査

### (1) 実施

- 神奈川の県立高校および中等教育学校 144 校（全日制課程と単独型通信制課程）の進路指導担当教員に調査を依頼。発送 9 月 28 日。回答締め切り 10 月 15 日。回収 92 校（回収率 63.9%）
- 質問数4問、選択肢回答（質問・選択肢・回答の詳細は教育開発センターHPに掲載します）
  - 質問1 特別専攻を知っていたか
  - 質問2 大学選びの多様化にあたり特別専攻を生徒にどのようにお知らせいただくか
  - 質問3 第一志望としない生徒に特別専攻を生徒にどのようにお知らせいただくか
  - 質問4 特別専攻についての説明会や高校への訪問説明について

### (2) 回答

- 92 校のうち「知っていた」は 36 校で、認知度は 39.1%
- 質問 2 は偏差値だけでない進路指導の観点を問い、「生徒に薦める選択肢の一つ」に 63.0%、質問 3 は第一志望でない生徒への進路指導の観点を問い、「特別専攻合格に満たなくとも一般学科に合格することもあるので特別専攻を受験するとよい」が 51.1%
- 質問4の選択肢「高校への説明のための大学からの訪問があるなら聞きたい」を20校が選択しました。うち9校について企画入学課石田部長と進学アドバイザー、筆者と進学アドバイザーによる訪問を実施しました。

表題のとおり本報告は「着手」の報告です。DP 実現に向けてどのように教育課程を編成し、周知に努めるか等は特別専攻のみのことでなく、また軽々に為し得るものではないにせよ、1 期生卒業という区切りにあたり、ワーキンググループの今後の活動を示すことを目的として報告しました。 <教育開発センター カリキュラム・コーディネーター 小田貞宏>

あとがき：特別専攻の教育課程の評価の報告第 1 弾をお伝えしました。今後も本ニュースで報告していく予定です。このような教育課程評価とそれに基づく教育改善は、一般学生向け教育についても必要で、教学マネジメントの重要な項目となっています。この観点での報告もいずれ行いたいと思います。 (所長 井上哲理)

\*問合せ先：教育開発センター (KAIT HALL 2F, edc@kait.jp) \*バックナンバーはセンターホームページで。